

活動名	団体名	特定非営利活動法人みらい福山
	地域	広島県福山市
	代表者	理事長 大元 光代
	支援金額	35万円
「みらい座」朗読劇『福山空襲』10周年記念公演 「ムっちゃんの歌が聞こえる」		
活動概要		
<p>平和の大切さについて、かつて阿鼻叫喚の地獄を体験した県民・市民として、書き残された「福山空襲の記録」をもとに分かり易く朗読劇化し、子どもたちと共に読み・語り継ぐという世代間交流のステージづくりです。</p> <p>公演10周年の記念として、関西芸術座より平和の語り部として一人芝居で活躍の小林泉さんを招き、子どもを含む一般公募市民と座員による「リーダーズシアター講座」を2回開催し指導を受け、小林さんと共に8月6日の本番公演とします</p>		
<p>◆実施時期 朗読劇 2011年8月6日(土) 14:00～開演 広島県民文化センターふくやまホール リーダーズシアター講座 7月16・17日 リーデンローズ練習室にて</p>		
<p>◆参加人数 朗読劇400名 講座 31名</p>		
参加総人員 約431名		



朗読劇「ムっちゃんの歌が聞こえる」オープニングより
高校生と大学生による平和を願うメッセージ



「ムっちゃんの歌が聞こえる」の一コマ
66年前の芦田川河原で遊ぶムっちゃん子どもたち



子どもたちの練習風景



♪届けましょう ここにいる私たちから 命と平和の尊さを

◆実施に伴う効果

10年前の「みらい座」の立ち上げのきっかけは、2001年9月11日の同時多発テロ事件であった。

あのような悪夢のようなことが現実だったのであるから、私たちは誰ちが二度と起こってはならないと思いつつも、何か不気味で不安で恐怖すら感じる毎日だったことを思い出す。案の定、私たちはその後、平和どころか地球上では報復の戦争・テロ・紛争など限らない殺し合いの年月を過ごしている。

私たちは、市民が体験した福山空襲の朗読劇であったら平和の大切さがわかって貰えるだろうと「みらい座」を立ち上げ、「どうぞ子どもたちに夢と希望の持てる社会を」と平和の大切さについて語り部活動をしてきたのであるが、市民の心へは中々届かないもどかしさを感じ、気持ちの落ち込みも一度や二度ではなかった。

それが今年はどうしたことであろう。

みらい座については、

参加者も例年(280~300名)に比べ今回は会場も大きかったこともあるが400名が観て聞いて、アンケート集約も前年約40名から、今年は126名の「大変良かった・よかった」とコメントをもらうことが出来た。そして、小学生から「こどもの語りべになりたい」と言う言葉を聞くことが出来たのである。

また、会員からは、マツダ財団様のお名前の効果も大との声も出、それも有りと言った。

しかし、それだけではない。

何よりも大きな力・やって良かったと思われたのは

取材に来られた新聞社から「また種が芽吹きだしましたね！」の言葉をもらったことである。

昨年から今年にかけての各紙のびんご版には、様々な団体や大学生の福山空襲の絵本・紙芝居・人形劇・朗読・体験談の一人語りなど、福山空襲にまつわる活動が、年々多く掲載されるようになった。それだけ「みらい座」が言って来た福山市の(市制95年)歴史の中で一番長い夜のこと「福山空襲」のことは風化させてはならないと浸透してきたということである。言い換えれば、新聞社も動かし、他団体・学校に大きな影響を与えてきていることに他ならないと私たちは思ってもいいのではないか。

地元新聞社からは、8/1、3、5、8と大小の記事掲載で支援をもらった。その上、社説にまで取り上げてもらい、大きな力をもらった。このことは、今後の活動への「道しるべ」と感じることが出来た。

どんな形でもいい、「命の大切さ」「平和の大切さ」については、「黙っていてもダメ！」の意識が育っていると確信できた今年の公演であった。

出前講座依頼が今年も来ている。10月から忙しくなる日々が目に見え始める。

◆苦労した点

朗読劇の練習場所の確保・・・小学生、中高生、大学生そして大人というように各々担うべき朗読劇の中のやるべき個所が違うため、合同練習までの稽古は多忙な上、費用の掛からない練習場所の確保に大変である。

資金集め・・・苦労と言うより、いつも一生懸命である。

◆今後の課題・発展の方向性

課題

資金面である。

資金集めも年齢的に無理が来ている以上、まずそのことから考えなくてはならない。この舞台活動が、子どもたちとともに創造し行動する「いのちと平和の大切さ」の取り組みである以上、細く長く継続していく事業でもあると認識している。しかし、それをどのようにしていくかが大きな課題である。

発展の方向性

朗読者に高齢者が多くなったため、今年度初めて朗読劇公演の前に取り組み高校生・大学生に好評だった

「リーダーズシアター」のワークショップ講座に本格的に取り組み、若い朗読者の育成に着手する。

そしてこのことを、今後の「みらい座」事業の「いのちと平和の語りべ」として更なる活動の継続をすることで発展につなげることとする。

◆活動を終えての感想・意見等

観賞して下さった会場の皆さまには、10周年にふさわしい舞台であったと感動の言葉をたくさんいただきホッとしたところです。

今年は、マツダ財団様のご支援で、資金の面で大きな心配もなく、思い切り10周年の記念の公演が出来ました。稽古中ほどの顔も思いなしかはつらつとしていたように見えました。

これもマツダ財団様のお蔭であると、感謝してもしきれない程です。

ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

課題はありますが、やはりみんなの気持ちは、「みらい座」ならではの今までの活動を継続したいのが本音のようです。これからみんなで「知恵絞」です。